

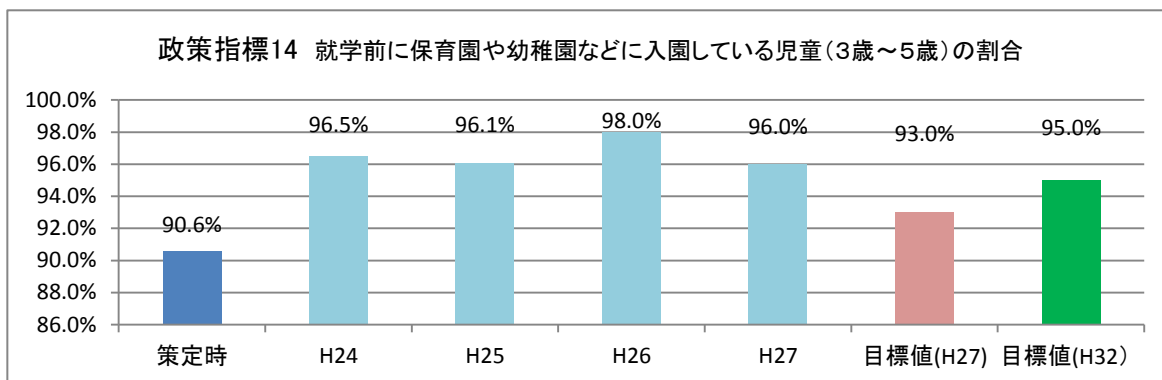
第3章 未来を育む あきしま (教育・文化・スポーツの充実)

1 とともに育む (学校教育の充実)

(1) 幼児教育

施策の目指す姿

幼児一人ひとりの個性と能力が尊重され、地域全体で見守るなか、いきいきと元気に成長しています。



施策の体系 ～幼児教育～	
<p>①家庭教育の機能充実</p> <ul style="list-style-type: none"> A 家庭における教育力の向上 B 啓発・相談事業の推進 <p>②地域教育の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> A 交流の場の確保 B 地域の教育環境の確保 	<p>③幼稚園等での教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> A 教育内容の充実 B 学校教育との連携

具体的な事業	基本計画 P130
①家庭教育の機能充実	
<p>子どもと親の家庭教育講座</p> <p>【内容】社会の急速な変化に伴い家庭や地域における教育機能の低下を考慮し、「子どもと親の家庭教育講座」を実施した。</p> <p>【効果】家庭・学校・地域の連携により一層の家庭教育の向上がはかられた。</p>	
<p>地域組織化事業</p> <p>【内容】はじめて赤ちゃんのための育児講座など、各種講座を実施。また、地域で子育て支援活動をしているグループやボランティアのネットワーク作り(グループネット)をはかり、活動の情報交換をし、地域子育て支援の活性化と環境の整備を行った。</p> <p>【効果】講座参加者同士の親子の関わりや交流の場として仲間作りに役立っている。グループネットでは自主サークル作りの一助となっている。</p>	
<p>親子ふれあいスポーツデーの開催</p> <p>【内容】市内小学校3校にて、各地域の親子と一緒にスポーツを楽しむ。</p> <p>【効果】親子と一緒にスポーツをすることにより、ふれあいを深める機会の提供をはかることができた。</p>	

①家庭教育の機能充実
<p>子ども家庭支援センター</p> <p>【内容】0～18歳未満の子どもと家庭に関する総合相談窓口を開設。子ども自身や子育て中の方の相談に応じるほか、ショートステイ事業、育児支援家庭訪問などの在宅サービスの提供や調整など、地域の子育てに関する情報の提供や児童虐待の相談も受けている。平成27年度の相談受付件数は6,169件で、相談件数は増加傾向にある。</p> <p>【効果】子育ての悩みの解消や心身の負担軽減にもつながっている。</p>
<p>地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）</p> <p>【内容】未就学の子どもと保護者が気軽に集い、相互交流・情報提供・子育ての不安や悩みを相談できる場所を提供する事業及び子育てボランティアや子育てグループの活動を支援する事業。</p> <p>【効果】身近な場所で、子どもをあそばせながら子育てに関する相談ができることや、同じ年齢のお子さんを持つ保護者同士で子育ての情報交換ができるためニーズが非常に高い。</p>
②地域教育の向上
<p>子ども居場所づくり事業</p> <p>【内容】乳幼児から18歳になるまでの青少年が自由に来て、遊び、楽しみ、交流できる場として児童センターを、地域の子どもや若者たちが気軽に集まれる居場所・交流の場として青少年交流センターを設置。また、放課後において、1年生から6年生までの児童に安全・安心な居場所を提供する放課後子ども教室の運営。</p> <p>【効果】多様な子どもの居場所を提供することにより、児童の健全育成に寄与している。</p>
<p>児童遊園維持管理事業</p> <p>【内容】児童遊園の除草・ゴミ清掃及びトイレ清掃により、児童の健全で安全な遊び場の提供に努めた。</p> <p>【効果】除草1～4回/年、ゴミ清掃1～2回/週、便器清掃・消毒2回/週、を実施し、児童の健全で安全な遊び場の提供と共に環境美化の観点からも地域教育の向上に貢献した。</p>
<p>一時開放子どもの広場</p> <p>【内容】市が民間及び公共の空き地を一時的に借用し、青少年のための遊び場を整備、充実をはかり健全育成をはかる。管理は、自治会や子ども会に依頼している。</p> <p>【効果】地域の自治会及び子ども会が適切に管理し、遊び場が確保された。</p>
<p>子どもと親の家庭教育講座</p> <p>【内容】社会の急速な変化に伴い家庭や地域における教育機能の低下を考慮し、「子どもと親の家庭教育講座」を実施した。</p> <p>【効果】家庭・学校・地域の連携により一層の家庭教育の向上がはかられた。</p>
<p>地域組織化事業</p> <p>【内容】はじめて赤ちゃんのための育児講座など、各種講座を実施。また、地域で子育て支援活動をしているグループやボランティアのネットワーク作り（グループネット）をはかり、活動の情報交換をし、地域子育て支援の活性化と環境の整備を行う。</p> <p>【効果】講座参加者同士の親子の関わりや交流の場として仲間作りに役立っている。グループネットでは自主サークル作りの一助となっている。</p>
③幼稚園等での教育の充実
<p>教育内容の充実</p> <p>【内容】認定こども園制度を活用し、教育と保育の一体的な提供をする。</p> <p>【効果】平成27年4月に教育と保育を一体的に提供できる保育園として、認定こども園イコロ昭和の森を新設した。</p>
<p>幼保小連携推進事業</p> <p>【内容】平成27年度は幼保小連携推進協議会を年間3回実施し、就学準備や、学校見学など情報連携について協議した。メンバーは、幼稚園長代表、保育園長代表、小学校校長代表、統括指導主事、特別支援教育係、子ども子育て支援課である。</p> <p>【効果】円滑な接続のための就学支援シートの作成意義について、共通理解をはかることができた。幼稚園、保育園関係者に小学校の様子を知ってもらう機会となっている。</p>

内部評価

幼稚園・保育園・認定こども園が、子ども・子育て支援法により教育・保育施設とされたことや、少子化、核家族化、社会経済状況の変化の中で幼児教育については、その充実が求められ、保護者への各種の子育て支援施策が必要となっている。このことから、交流の場の提供、子ども家庭支援センターなどでの各種相談事業、施設の拡充、幼稚園・保育園での教育・保育の提供、幼稚園への就園奨励、他部署との連携による学校教育への連携など、多様な施策を実施している。

事業では数値化が困難なものも多いが、子育て拠点の利用状況、相談内容、緊急対応、幼稚園・保育園の利用状況などから、市民ニーズへの対応は大きかったものと考えている。

今後は、現行施策の充実に加えて広報の方法や、特別な配慮が必要と思われる子どもや家庭への支援も検討していく必要がある。

評価

この分野の取り組みは、人口減少・超高齢社会の到来の中で、時代背景も激変しており、度重なる制度改正も踏まえれば、喫緊に対応しなければならない課題を抱えた分野である。

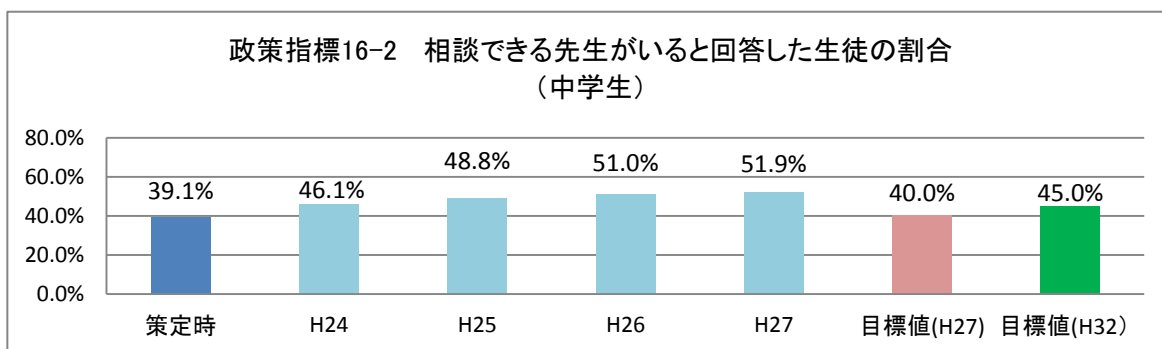
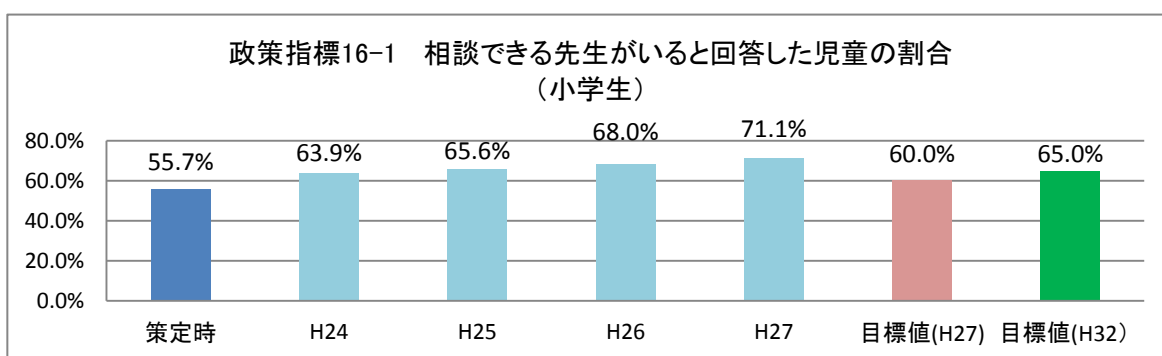
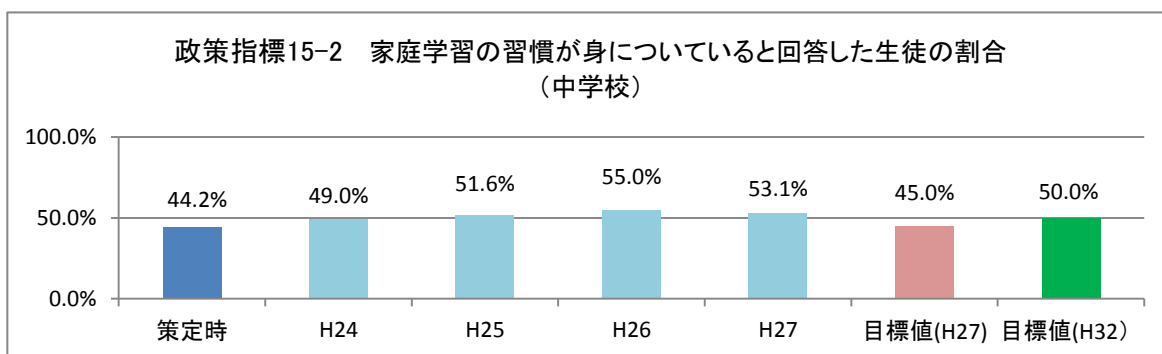
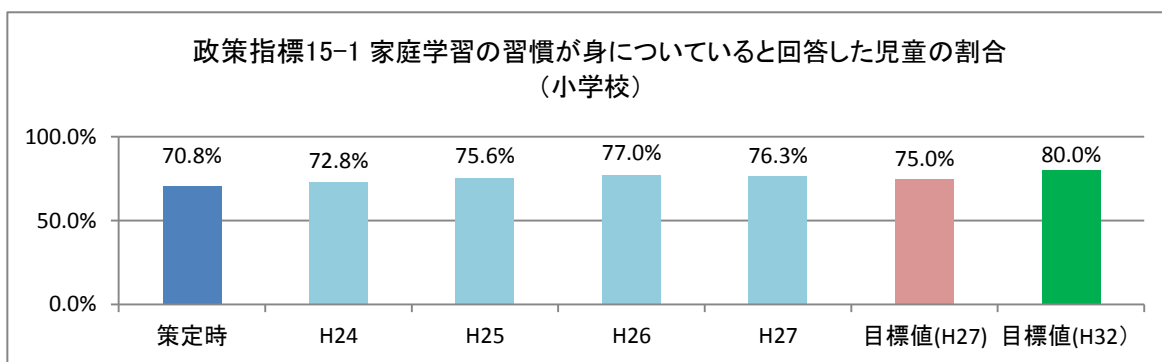
その中で、市としての取り組みも重点に置かれ、身近な場所で、子どもをあそばせながら子育てに関する相談ができる子育てひろばの充実がはかられており、さらに今後拡充も予定されている。子育てに不安を持つ保護者の仲間づくりにもつながる支援が推進されている。

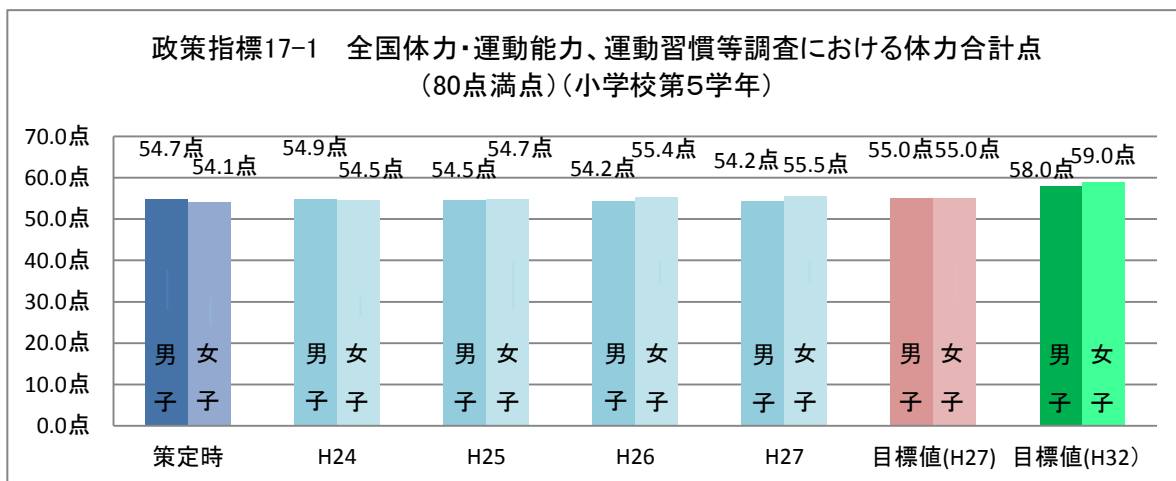
また、放課後の子どもの居場所づくりについても、学童クラブだけでなく、地域と連携した放課後子ども教室の取り組みが進められ、多様な「居場所」の提供が行われていることは十分に評価できる。

(2) 学校教育

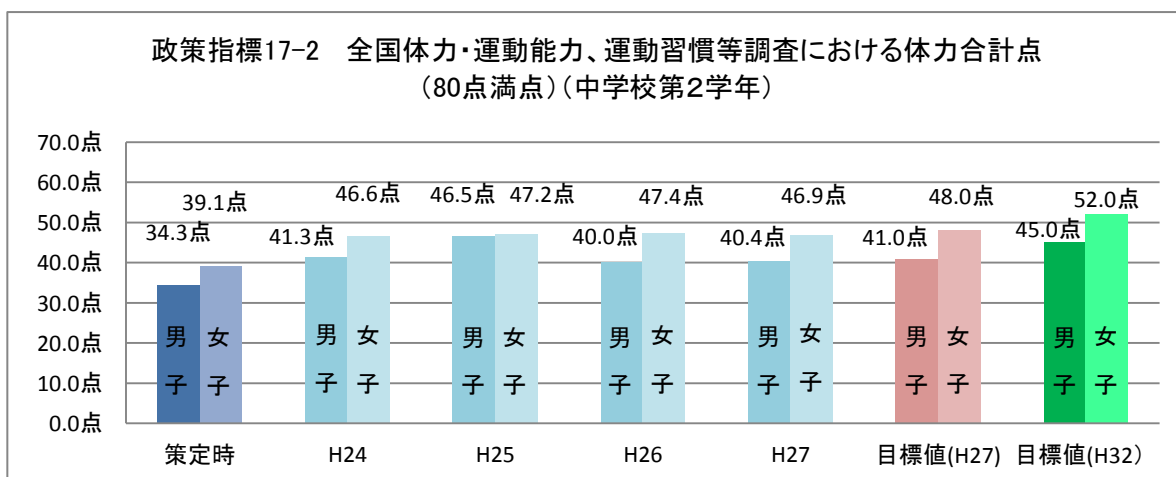
施策の目指す姿

安全で質の高い学習環境が整備され、地域が学校を支えるなかで、確かな学力と豊かな人間性、健やかな体がバランス良く身についた「たくましい昭島っ子」が育ち社会に貢献しています。





※ 男子については、敏捷性にかかわる「反復横跳び」、持久力にかかわる「20mシャトルラン」の数値が低かったため、総合的な指標である体力合計点が伸びず、目標値に到達しなかった。



※ 男女ともに瞬発力にかかわる「立ち幅跳び」、持久力にかかわる「持久走」の数値が低かったため、総合的な指標である体力合計点が伸びず、目標値に到達しなかった。

施策の体系 ～学校教育～	
<p>①教育振興基本計画の推進</p> <p>②学校教育の充実</p> <p>A 確かな学力の定着</p> <p>B 豊かな心の醸成</p> <p>C 健やかな体の成長</p> <p>③家庭・地域との連携</p> <p>A 「開かれた学校」の推進</p> <p>B 家庭・地域の教育力の向上</p>	<p>④教育環境の整備</p> <p>A 施設の維持と活用</p> <p>B 教育ICT化の推進</p> <p>C 環境への配慮</p> <p>D 学校給食の充実</p> <p>E 安全対策の充実</p> <p>F 学校運営の改善</p> <p>⑤豊かな未来の実現</p> <p>A 環境教育の推進</p> <p>B 国際理解教育の推進</p> <p>C キャリア教育の推進</p> <p>D 就学の支援</p>

具体的な事業	基本計画 P134
①教育振興基本計画の推進	
教育振興基本計画の推進 【内容】 ふるさと昭島の自然や文化を愛し、社会に主体的に貢献できる『たくましい昭島っ子』の育成をはかるとともに、市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習の推進を基本に、家庭や地域の教育力を高め、多様な学習活動をはじめ、スポーツ、文化芸術など市民の自主性を尊重した生涯学習の振興に努めた。 【効果】 計画に沿って事業を進め、その結果を昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書を作成し公表した。	
②学校教育の充実	
昭島市学力調査事業 【内容】 小学校第4学年、中学校第1学年を対象に、市内で統一の学力調査を実施することにより、児童・生徒の学力や学習状況を把握し、指導方法の改善につなげる。 【効果】 小学校4学年では、3学年までの学力がどの程度身に付いているか、また、中学校第1学年では小学校の学習内容がどこまで身に付いているかが確認でき、さらに国や都の学力調査と併せることで段階を踏んだ学力向上への取り組みができた。	
学級集団等状況把握事業 【内容】 小学校第3学年以上の児童・生徒を対象に、日常生活の行動をデータに基づいて分析する「学級満足度調査(Hyper-QU)」を実施した。教員が、児童・生徒一人ひとりの特性や心情面、学級集団の傾向を把握し、客観的に分析することにより、個々の支援方法をより明確にし、あたたかい人間関係づくりに役立てる。 【効果】 教員がこの調査を基に、児童・生徒との関わり方を意識することにより、児童・生徒の学校生活に対する意欲や学級での満足度が高まるとともに、いじめや不登校などの問題行動の予防につながった。	
少人数指導、ティームティーチング 【内容】 小学校の算数、中学校の数学、英語において習熟度別少人数指導を実施し、児童・生徒の学習の習熟に応じたきめ細やかな指導の充実をはかった。 【効果】 児童・生徒の学習の状況に応じて、きめ細やかな指導を行うことにより、児童・生徒の学習の理解を深めることができた。	
学校 ICT の整備 【内容】 情報教育の推進に不可欠な教育用・教職員用コンピュータ及び周辺機器の計画的な整備を行った。拝島第一小学校に校内無線 LAN の整備及びタブレット端末 40 台を設置した。また、小学校 7 校に各校 11 台のタブレット端末を設置した。 【効果】 児童が、パソコンやタブレットを使用することで、インターネットを活用して調べ学習を行ったり、調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめ発表を行ったりすることができる。また、タブレットは持ち運びがしやすいため、カメラ機能を用いて体育の跳び箱の跳び方を撮影して振り返るなど多様な活用をはかった。	
学校図書館支援員配置事業 【内容】 学校図書館を円滑に運営するため、司書資格をもつ図書館支援員を配置し、図書館業務を行う。平成 27 年度は、各校年間 30 日配置した。 【効果】 学習指導要領に示されているすべての教科学習の基盤となる言語に関する能力の育成をはかるために、司書資格を持つ専門家を配置することで機能向上をはじめ、児童・生徒の読書活動の推進に寄与した。	

②学校教育の充実
特別支援教育推進事業
<p>【内容】昭島市特別支援教育推進計画に基づき、発達障害を含めた特別な支援を必要とする児童・生徒をトータルな面から支援する体制を整え、障害のある児童・生徒の一人ひとりの教育ニーズを把握し、もてる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するための特別支援教育を推進した。</p> <p>【効果】特別支援教育推進計画に基づき体制整備を整えたことにより、就学相談件数なども増加しており、一人ひとりに適した教育環境を提供できている。就学相談件数：平成26年度68件、平成27年度88件。</p>
小中連携の推進
<p>【内容】平成27年度には小中連携教育推進委員会において、各校のきまりを検討し、小学校と中学校との円滑な接続をはかった。また、中学校区ごとに年間3回の小・中連携の日を設定し、教員及び児童・生徒の交流を行った。平成28年度から瑞雲中学校、つつじが丘小学校、武蔵野小学校において小中一貫教育を研究する取り組みを開始した。</p> <p>【効果】中学校への円滑な接続をはかることができ、中1ギャップ問題の解消に役立った。</p>
豊かな心の醸成
<p>【内容】学校における教育活動全体を通して、人権教育、道徳教育を意図的、計画的に実施し、他人を尊重し、認め合うとともに進んで社会に貢献する態度や規範意識を育む指導を行っている。</p> <p>【効果】平成27年度実施の児童・生徒アンケートの「自分はよいこと、悪いことを判断する力が身に付いていると思うか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童は、86.2%、生徒は87.0%といずれも85%以上となっている。</p>
教育相談事業
<p>【内容】小学校5学年、中学校1学年の全児童・生徒の個別面談を実施し、学校生活への円滑な適応をはかった。また、適応指導教室において、不登校傾向の小学校18名、中学校28名の児童生徒の学校復帰に向けての指導を行った。</p> <p>【効果】個別面談により、いじめの未然防止をはかることができている。臨床心理士と顔を合わせることで、その後の相談がしやすくなっている。適応指導教室に通室していた中学3年生は、全員進路先が決定した。</p>
オリンピック・パラリンピック教育推進校事業
<p>【内容】平成27年度はオリンピック・パラリンピック教育推進校に14校が指定され、体育の授業改善や日常的に体を動かす取り組みを行った。オリンピック・パラリンピック教育を推進するため、全校が全体計画を作成した。平成28年度は全校が指定された。</p> <p>【効果】体力の向上をはかるとともに、オリンピック精神、日本の伝統・文化の継承、国際理解教育、障害者スポーツの理解などが学習できた。</p>
児童・生徒健康診断
<p>【内容】小・中学校全学年で学校医による内科・眼科・耳鼻科・歯科の定期健康診断を各学校で実施している。また、小・中学校全学年対象に尿検査、結核健診、小・中学校の1年生対象に心電図検査を実施している。</p> <p>【効果】医師の所見により疾病の早期発見と早めの治療が可能である。また、虫歯などの予防について歯科医の助言により保健指導にも活かされており、平成27年度は東京都学校歯科保健優良校として6校が入選した。</p>
部活動指導補助員事業
<p>【内容】市立中学校全6校において、外部指導員として、部活動指導補助員を配置している。平成28年度は、37部活動で、44名が登録しており、部活動の専門的な技術指導を行い、部活動の活性化をはかっている。</p> <p>【効果】生徒が部活動の専門的な指導を受けることができ、部活動の充実がはかられた。</p>
地場産食材の活用
<p>【内容】生産者と連携をはかり、学校給食に地場産食材を積極的に使用した。また、各学校の給食時間、試食会などにおいて地場産食材について情報提供をした。</p> <p>【効果】地場産食材を使用することで、児童・生徒に生産者への感謝の気持ちやその食材への関心を高めることができ、食育指導につながった。</p>

②学校教育の充実
<p>食育リーダー会議の開催</p> <p>【内容】各学校で食育リーダーを選任し、食育や今後の取り組みなどについて会議を開き、情報交換などを行った。</p> <p>【効果】それぞれの学校における食育の取り組みなどの状況を把握することができた。</p>
<p>栄養職員による食育指導</p> <p>【内容】授業や給食時間を利用し、栄養教諭及び栄養士が学校と連携をはかり、食に関する指導を行った。</p> <p>【効果】学校給食を通じた食育指導の推進がはかられた。</p>
<p>和食の日の取り組み</p> <p>【内容】毎年11月24日が和食の日となっていることにちなみ、実施日を決め、市内全小中学校の給食を和食献立に統一し、提供した。</p> <p>【効果】和食の魅力と素晴らしさを周知することができた。</p>
③家庭・地域との連携
<p>土曜・放課後等補習教室事業</p> <p>【内容】学校と教育委員会が連携して、土曜日や放課後などに子どもの学習状況に応じて補習を行い、確かな学力の定着をはかった。平成27年度は、全小・中学校において、土曜日補習を延べ1,752時間、103人の指導員で実施。放課後補習は、延べ535時間、41人の指導員で実施。各校の1回あたりの平均参加児童・生徒数は約46人。</p> <p>【効果】児童及び生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的・基本的な学習内容を身に付けることができた。</p>
<p>通学路安全連絡員</p> <p>【内容】学校の統合により新しい学校として開校した拝島第一小学校、つつじが丘小学校に児童の登下校時に、学区内の3か所に通学路安全連絡員を配置している。</p> <p>【効果】統合後、通学路が変更になった児童がいたが、通学路の安全見守り活動が強化され、児童の交通安全に役立っている。</p>
<p>教育推進計画事業</p> <p>【内容】「第2次昭島市教育振興基本計画」に基づき、学校が児童・生徒が将来への希望をもてるよう教育課程を工夫し、児童・生徒の学習意欲の喚起と学力向上を主眼とする実施計画を作成し実行している。</p> <p>【効果】各学校の教育プランに基づいた学習内容に教育活動支援員を活用することで、より学校の状況や特色に合った学習支援を行うことができるとともに、児童・生徒への学習意欲向上につながった。</p>
<p>日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成事業</p> <p>【内容】「日本の伝統・文化の良さを理解し、様々な国や地域の方に日本の良さを発信できる児童・生徒」、「互いの文化を尊重した交流ができる児童・生徒」の育成をはかる事業として、平成27年度に7校が都から指定を受け、車人形、和太鼓、茶道、箏など伝統文化に関する見識の高い地域の外部講師を招聘し、体験的な活動を重点において伝統文化教育を実践した。平成28年度は、全校が都の指定を受けた。</p> <p>【効果】伝統文化に関する見識の高い地域の外部講師による体験的な活動を通して、日本や昭島市の伝統文化について、理解を深め、親しみをもつことができています。</p>
<p>青少年育成事業</p> <p>【内容】青少年問題協議会、補導連絡会及び各小学校地区委員会などとの連携をはかり、情報交換や地区活動について研鑽を高め、地域での健全育成活動の活性化をはかった。</p> <p>【効果】青少年問題協議会では、青少年健全育成活動方針及び重点項目の推進をはかった。小学校地区委員会では、各地区で地域行事を通して異年齢の交流をはかった。</p>

④教育環境の整備
施設の維持と活用
<p>【内容】平成23年度に校舎・体育館の構造部材の耐震化が、平成26年度に体育館の非構造部材の耐震化が完了した。また、校舎のトイレの改修工事や除湿温度保持機能復旧工事、プールの改修工事については、毎年1校から2校を計画的に実施している。体育館の外壁及び屋上防水については劣化状況に応じて改修工事を行っている。余裕教室については、35人学級の実施や少人数学級、特別支援教室など新たな需要にも対応し、効果的な活用をはかっている。バリアフリー化については、大規模な体育館改修の際にスロープや誰でもトイレを設置しており、小中学校19校中17校に設置されている。建築設備や消防設備、小荷物昇降機などの安全点検は、法に基づき実施し、遊具や運動設備などの点検は、日常点検のほか、年に1度実施している。環境衛生検査については、照度・空気検査、粉塵検査、プールの水質検査、飲料貯水槽の水質検査などについて法に基づき実施している。</p>
<p>【効果】計画的な改修工事や保守点検、安全点検、検査などにより安全で快適な教育環境がはかられた。</p>
学校ICTの整備
<p>【内容】情報教育の推進に不可欠な教育用・教職員用コンピュータ及び周辺機器の計画的な整備を行った。拝島第一小学校に校内無線LANの整備及びタブレット端末40台を設置した。また、小学校7校に各校11台のタブレット端末を設置した。</p>
<p>【効果】児童が、パソコンやタブレットを使用することで、インターネットを活用して調べ学習を行ったり、調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめ発表を行ったりすることができる。また、タブレットは持ち運びがしやすいため、カメラ機能を用いて体育の跳び箱の跳び方を撮影して振り返るなど多様な活用がはかられた。</p>
教育機器・教材等の整備
<p>【内容】学習指導要領に対応した授業を円滑に実施するため、教育機器・教材などの整備を行った。電子黒板機能付きプロジェクタは現在、つつじが丘小、拝島第二小、拝島第三小学校に配備されており、平成28年度に全校に3台ずつ配備する予定である。</p>
<p>【効果】電子黒板機能付きプロジェクタを活用することで、児童・生徒に視覚的な情報提示を行うことができ、学習への興味・関心をもたせ、意欲的に学習に取り組むことができる効果がある。</p>
太陽光発電設備設置事業
<p>【内容】環境教育にも役立つ太陽光発電設備を校舎に設置した。平成28年4月1日時点で4校、合計50kwの太陽光発電設備を設置した。</p>
<p>【効果】環境教育の充実、電気代節約、非常時の電源確保につながっている。</p>
学校情報の提供、情報連携
<p>【内容】全校がホームページを開設して、学校情報を広く発信している。</p>
<p>【効果】各校の教育活動がインターネットを通じて、公開されており、開かれた学校づくりに役立っている。</p>
学校関係者の情報セキュリティ意識の向上
<p>【内容】各校において、毎年、服務事故防止研修として、情報管理について各校で研修を実施している。初任者については、指導課主催の情報教育研修において、情報セキュリティ意識の向上をテーマに研修を実施している。職員室などを情報セキュリティゾーンとして、来校者の立ち入りを制限するなど情報管理に努めている。</p>
<p>【効果】学校関係者の情報危機管理意識が定着している。</p>
校庭芝生化事業
<p>【内容】芝生の管理に当たっては、児童、保護者、地域住民との協働を基本とし、平成28年4月1日現在で14校の校庭に13,100㎡の芝生化を実施した。</p>
<p>【効果】特に運動能力に課題のある児童の体力向上がはかれるとともに、ヒートアイランド対策及び緑化対策に資するとともに、運動場の砂埃防止がはかられた。</p>
壁面緑化事業
<p>【内容】壁面緑化を、平成27年度は9校で実施した。</p>
<p>【効果】緑化対策や植物の観察を通じた理科学習に資するとともに直射日光を遮ることで冷房の使用抑制につながった。</p>

④教育環境の整備
栄養バランスのとれたおいしい給食の提供
<p>【内容】米飯給食の充実に向け、小中学校とも提供回数を増やし、週平均3回以上実施しており、さらに、献立の内容を工夫することにより、栄養バランスのとれたおいしい給食を提供した。また、一部個別食器が導入されていない学校には、共同調理場の整備にあわせ導入できるよう検討を進めている。</p> <p>【効果】米飯給食を充実させることにより、望ましい食習慣の形成や食文化の伝承などの食育につなげた。</p>
食品の安全衛生管理
<p>【内容】「食品衛生法」や「学校給食衛生管理基準」に基づく検収や検食、献立の保存などによる安全性の確認や年3回の食品衛生検査、業者視察などを実施し、衛生管理の徹底に努めた。また、学校給食に使用する食材については、「学校給食用物資購入基準書」に沿って品質、価格、味などにより選定し、食品の安全管理にも努めた。</p> <p>【効果】安全衛生管理の徹底をはかることにより、安全で安心な給食を提供することができた。</p>
学校給食運営基本計画の策定
<p>【内容】教育委員会から学校給食運営審議会へ、「学校給食運営のあり方」について諮問し、その内容について審議・検討が行われた。また、答申案をまとめるにあたり、パブリックコメントを実施し、その意見も一部反映した内容で、教育委員会に答申された。その答申内容を踏まえ、平成28年3月に「学校給食運営基本計画」を策定した。</p> <p>【効果】この基本計画を策定したことにより、さらなる学校給食の充実をはかることができる。</p>
地場産食材の活用
<p>【内容】生産者と連携をはかり、学校給食に地場食材を使用した。また、各学校の給食時間、試食会などにおいて地場産食材について情報提供をした。</p> <p>【効果】地場産食材を使用することで、児童・生徒に生産者への感謝の気持ちやその食材への関心を高めることができ、食育指導につながった。</p>
let's 食育親子クッキング教室
<p>【内容】小学生とその保護者を対象に、夏休みを利用してクッキング教室を実施した。</p> <p>【効果】料理を作る楽しさや食事の重要性、栄養バランスなどについて、料理をつくりながら学ぶことができた。</p>
let's 実践発表会
<p>【内容】全国学校給食週間に合わせ、食育に関する講演会や学校での食育の取り組み事例の発表を行った。</p> <p>【効果】学校給食が担う役割などについて周知がはかられた。</p>
お弁当の日
<p>【内容】小中学校全校において、家族とお弁当について話しをしたり、自分もお弁当づくりを手伝うなど発達段階に応じた内容で、「お弁当の日」を年3回実施した。</p> <p>【効果】食への関心や食事の大切さについて、親子で考えるきっかけづくりとなった。</p>
学校評価・第三者評価委員事業
<p>【内容】自己評価・学校関係者評価を全校で実施し、次年度の教育課程に生かしている。また、平成27年度は6校を対象に学識経験者・企業経営者・市民代表からなる第三者評価委員により、教員の指導力向上を中心に第三者評価を実施した。</p> <p>【効果】自己評価・学校関係者評価は、地域や保護者の意見を学校経営に取り入れ、学校経営の改善をはかる機会となっている。第三者評価委員会による評価は、当該学校にかかわる者以外の第三者の視点で行う客観的な評価と、教育指導や学校経営について専門家の視点で行う専門的な評価が実施され、学校経営の改善をはかることができた。</p>
学校の規模や配置の適正化
<p>【内容】昭島市立学校適正規模適正配置等審議会の答申により、平成27年度に拝島第一小学校と拝島第四小学校を統合し、拝島第一小学校とした。平成28年度にはつつじが丘南小学校とつつじが丘北小学校を統合し、新たにつつじが丘小学校を開校した。また、昭和中学校の一部の学区域を瑞雲中学校の学区域とした。</p> <p>【効果】統合により、小学校では単学級みの学校が解消され、各学年で2または3学級の適正規模がはかられた。</p>

⑤豊かな未来の実現
環境教育の推進 <p>【内容】生活科や総合的な学習の時間などを活用して、地域や学校の実態に応じた農業体験を実施している。また、6月の環境月間に関連して、各教科などにおいて環境教育を実施している。</p> <p>　　拝島第二小学校では、平成24・25年度に研究指定校として環境コミュニケーションセンターと連携しながら環境教育への研究に取り組んだ。</p> <p>【効果】児童・生徒の環境に対する意識を高めるきっかけとなっている。また、拝島第二小学校は、平成25年度に地球温暖化防止活動環境大臣賞及び東京都教育委員会表彰を受けた。</p>
キッズ ISO プログラムの実施 <p>【内容】平成27年度は、小学校4校の5年生241人を対象にキッズ ISO プログラムを実施した。</p> <p>【効果】キッズ ISO では、地球温暖化などの環境問題や省エネやリサイクルについて学び、環境に配慮した意識の啓発がはかられた。</p>
英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業 <p>【内容】平成27年度は、昭島市から小学校6年生65人、中学校2・3年生13人が参加し、国分寺市及び東大和市と共同でアメリカ人学生との2泊3日の宿泊事業を実施した。</p> <p>【効果】アメリカ人学生がリーダーとなり、英語研修や英語を使ったゲームなどを行い、外国人とのコミュニケーションをはかる楽しさを実感した。</p>
中学生海外交流事業 <p>【内容】平成27年度は、8月に西オーストラリア州パースにあるシェントン・カレッジと交流事業を実施し、中学生20人が8泊9日で同校を訪問する中で、学校生活、ホームステイなどを通して交流をはかった。また、9月には、同校の20人の生徒を福島中で受け入れた。なお、平成28年度はパース・モダン・スクールと交流事業を実施し、隔年で交流を重ねている。</p> <p>【効果】海外の学校との相互交流を通して直にその国の文化や歴史、言語に触れることで、国際的視野を広げた。</p>
キャリア教育の推進 <p>【内容】各学校において、キャリア教育全体計画及び年間指導計画を作成し、児童・生徒が将来、夢をもてるようにするとともに望ましい勤労観を育成している。平成27年度はキャリア教育推進委員会を年間3回開催し、各校のキャリア教育の実践を発表し合い、リーフレットにまとめて全教員に配布した。全中学校において、職場体験を実施した。</p> <p>【効果】各校でキャリア教育を実践し、児童・生徒に自分の生き方や将来について考えさせる機会を設けている。</p>
未来をひらく発表会事業 <p>【内容】平成27年度は、子どもの主張意見文コンクール、中学生英語スピーチコンテスト、中学生海外交流事業派遣報告の3つの内容を実施し、243人の参観があった。</p> <p>【効果】「青少年とともにあゆむ都市宣言」の精神を実践活動につなげていくとともに、今後の国際化社会に向けた取り組みとして意識が高まっている。</p>
就学援助費制度 <p>【内容】経済的な事情などで教育費の支出が困難な家庭に、学用品費や給食費などの費用を援助している。平成27年度は小学生928人、中学生624人を対象に126,379,750円の援助を行った。</p> <p>【効果】教育活動への不参加の未然防止に役立っている。</p>
奨学金制度 <p>【内容】昭島市育英会で、市内に在住し、高等学校、高等専門学校もしくは大学、専修学校高等課程等に在学し、勉学意欲がありながら、経済的事由により修学が困難な者に対し、学資金の一部として奨学金、入学一時金を貸付ける。平成27年度は高校生の奨学生8名、大学生の奨学生12名に奨学金の貸付を行った。</p> <p>【効果】高等教育を受ける機会の保障の役割を果たしている。</p>

内部評価

学校教育の充実をはかるために、確かな学力の定着、豊かな心の醸成、健やかな体の育成を柱に各事業を進めているところである。確かな学力の定着として、習熟度別少人数指導をはじめとした「分かる授業」を目指した授業改善の取り組み、個に応じた指導の充実、土曜日・放課後補習教室などの取り組みを実施しているが、学力調査において、東京都の平均正答率に届いていないのが現状である。今後も教員の資質向上をはかり、日常の授業を充実させるとともに家庭学習の定着がはかれるように働きかけていく。豊かな心の醸成では、学級満足度調査の実施や教育相談の充実を通して、児童・生徒が相談しやすい雰囲気醸成されてきている。また、不登校児童・生徒が減少傾向にあることは成果である。健やかな体の育成では、今後も継続して日常的な体力向上、食育の取り組みを通して、目標値に近づけるよう取り組んでいく。

特別支援教育については、昭島市特別支援教育推進計画に基づき、特別な支援を必要とする児童・生徒をトータルな面から支援する体制を整えてきた。今後もニーズに応じた教育環境を提供できるよう計画を推進するとともに児童発達支援基本計画と連携をはかって進めていく必要がある。

教育環境の整備については、学校施設耐震化事業が終了し、児童・生徒の安全の確保がはかられた。今後、施設の老朽化に備え、計画的な修繕の実施が課題である。また、新しい教育課題に対応するためにICT環境の整備は不可欠である。貧困家庭が社会問題化している中で就学援助や育英会などの事業は、今後も継続する必要がある。

今後においては、市長が主催者となり開催する総合教育会議を通じて、教育委員会と市長部局との連携をさらに密にし、知・徳・体の調和のとれた子どもたちの育成に努めていく。

評価

児童発達支援基本計画と特別支援教育推進計画の連携をはかり、発達障害の子どもに対する切れ目のない支援を行うことにより、円滑な学級運営を進められたい。

また、子どもたちの貧困による負の連鎖が問題となっていることから、生活困窮者自立支援法に基づく事業展開とも連携しながら、就学援助事業や奨学金制度についても引き続き取り組まれたい。

学校情報の提供については、全校でホームページは開設されているものの、学校により更新の頻度に格差があり、情報として活用できない学校もある。最新の情報が入手できるよう管理されたい。

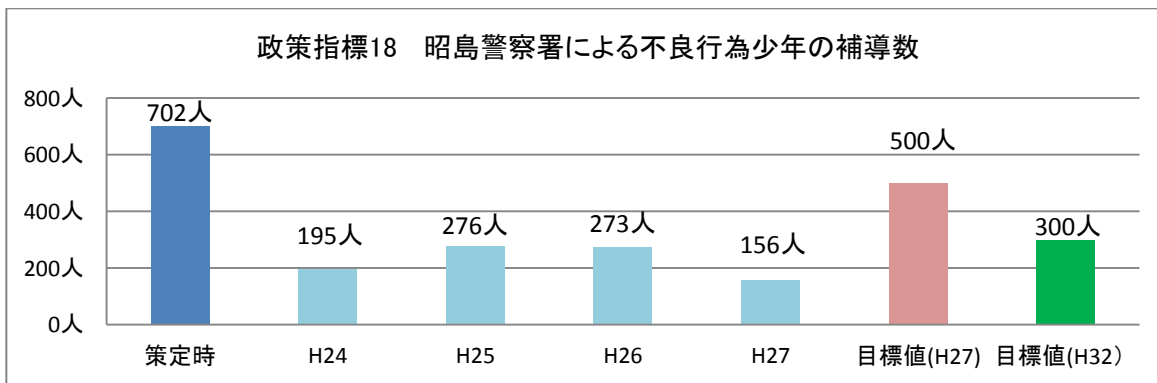
総合教育会議を通じた教育委員会と市長部局とのさらなる連携により、「たくましい昭島っ子」の育成に期待する。

2 ともにあゆむ（青少年の育成）

(1) 青少年の健全育成

施策の目指す姿

心身ともに健康で、他者を思いやる心を持った青少年が、地域社会の一員として成長し、自らの可能性を十分に発揮しています。



施策の体系 ～青少年の健全育成～

①健全育成体制の整備

- A 健全育成組織の充実
- B 相談活動の充実
- C 青少年団体の育成
- D 健全な社会環境の確保

②年齢期ごとの取り組み

- A 一体的で連続した取り組み
- B 乳幼児期
- C 学童期
- D 思春期
- E 青年期・ポスト青年期

③体験と交流の推進

- A 体験活動の充実
- B 交流活動の推進

具体的な事業

基本計画 P143

①健全育成体制の整備

青少年育成事業

【内容】青少年とともにあゆむ小学校地区委員会（ウィズユース）では、情報交換や地区活動について研鑽を高め、健全育成活動の活性化をはかった。

【効果】青少年の健全な育成を目指す地区委員会は、組織内の様々な知識や技能の活用により、小学生リーダー講習会、レクリエーション、パトロール、環境美化などの活動を実施し、地域の青少年が安全・安心に過ごすことができた。

青少年フェスティバル事業

【内容】「青少年とともにあゆむ都市宣言」推進事業として、実施した。

【効果】青少年フェスティバル実行委員会では青少年が中心となって実行委員会を組織し、企画・運営などを行い、実行委員それぞれが役割を果たすことができた。

<p>①健全育成体制の整備</p>
<p>相談活動の充実</p> <p>【内容】子ども家庭支援センターや教育相談室などで、相談を行っている。また、ひきこもりやネット携帯などのトラブル相談には、他の相談機関を案内している。また、子ども家庭支援センターでは、フリーダイヤルの子ども相談専用ダイヤル（キッズナー）を設け、子どもからの相談も受けている。</p> <p>【効果】相談件数は、年々増加傾向にあり一定の効果が見られている。</p>
<p>子ども会育成補助金事業</p> <p>【内容】市内で活動する小学校地区子ども会連合会及び単一子ども会に活動費として補助金を交付している。補助金交付説明会と併せ団体同士の情報交換・交流会を設けている。</p> <p>【効果】補助金は、子ども会活動の運営・育成事業・体験活動事業などの実施に充当。活動の活性化がはかられた。情報交換・交流会では、団体間の情報交換や交流などがはかられネットワークが構築できた。</p>
<p>青少年問題協議会の運営</p> <p>【内容】青少年を取り巻く諸問題について協議し、問題解決のため、家庭・学校・地域・関係団体の教育の指針を定めるなど、次代を担う青少年の健全な育成を目指す。</p> <p>【効果】市長を会長とする青少年問題協議会では、青少年健全育成活動基本方針を定め。青少年施策における家庭・学校・地域・関係団体の役割を重点項目として掲げ、関係団体に周知し、各機関の活動につながった。</p>
<p>青少年補導連絡会の運営</p> <p>【内容】青少年が心身ともに健やかに成長することを願い、青少年をめぐる諸問題を解決するため、各地区の情報交換や連携協力をはかり、関係機関・団体との連絡調整を行い、青少年の健全な育成をはかる。</p> <p>【効果】補導連絡会が持つ機能を十分に発揮できるよう委員の資質の向上に努め、関係機関や団体との連携をはかり、青少年の保護育成に努めた。また、社会を明るくする運動及び青少年フェスティバルにも参加し、青少年の健全育成に努めた。</p>
<p>薬物乱用防止教室</p> <p>【内容】学校薬剤師などの専門家を講師として招聘し、薬物の身体に与える影響などについて学習し、薬物乱用防止について学習する。小・中学校全校において実施している。</p> <p>【効果】薬物の身体に与える影響を具体的に学習することを通して、児童・生徒の薬物乱用防止への意識を高めている。</p>
<p>②年齢期ごとの取り組み</p>
<p>子育てハンドブックの配付</p> <p>【内容】妊娠期から学童期に至るまで、子育てに関する幅広い情報の提供と、家庭と地域（公共機関）が子育てのための連携に役立つ情報を盛り込んだハンドブックを作成している。</p> <p>【効果】子ども子育てに関する制度の変更が頻繁にあるが、改訂版作成により、最新の情報を提供することができた。</p>
<p>地域子ども・子育て支援事業</p> <p>【内容】地域の実情に応じた子育て事業として、利用者支援事業、時間外保育事業、地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）、一時預かり事業、トワイライトステイ事業、休日保育事業、病児、病後児保育事業、ファミリー・サポート・センター事業を展開している。</p> <p>【効果】保育が必要な子どもがいる家庭だけでなく、「すべての子育て家庭を対象に」地域のニーズに応じた多様な子育て支援をすることができた。</p>
<p>青少年育成事業</p> <p>【内容】地区委員会では、情報交換や地区活動について研鑽を高め、健全育成活動の活性化をはかり、補導連絡会では、青少年の保護育成活動を推進した。</p> <p>【効果】地区委員会は、組織内の様々な知識や技能の活用により、小学生リーダー講習会、レクリエーション、パトロール、環境美化などの活動を実施し、地域の青少年が安全・安心に過ごすことができた。補導連絡会では、社会を明るくする運動に取り組み、駅頭ティッシュ配布などで薬物乱用などの非行行為防止の啓発につながった。</p>

②年齢期ごとの取り組み
<p>要保護児童対策地域協議会</p> <p>【内容】学校や主任児童委員など、各機関との連携をはかり、要保護児童の早期発見、適切な支援につなげ、思春期の児童の相談に対応した。</p> <p>【効果】要保護児童の早期発見、適切な支援につながった。</p>
<p>創業支援事業</p> <p>【内容】創業に関する様々な相談に対応可能なワンストップ窓口を平成27年度に設置した。</p> <p>【効果】創業を希望する者に対し、個別相談や創業セミナーを実施した。30歳代前半の相談者もあり、創業の支援につながった。</p>
<p>就職フェア In 昭島の開催</p> <p>【内容】ハローワーク立川との共催により、近隣市も含む優良企業と就職希望者のマッチングを実施した。</p> <p>【効果】市内にある東京都立職業能力開発センターで開催し、センターに通っている青年の訓練生も多く参加した。</p>
<p>青梅線沿線地域産業クラスター協議会事業</p> <p>【内容】青梅線沿線周辺地域でものづくり企業に就職を考えている学生（新規採用）と地元有力企業とのマッチング事業を実施した。</p> <p>【効果】合同企業説明会を大学で開催することで、学生と地元企業のマッチングを効率的にはかることができた。</p>
③体験と交流の推進
<p>富士見高原野外活動施設管理運営・北秋川山の家 野外活動施設借り上げ</p> <p>【内容】市内の青少年団体、市民団体に長野県にある活動施設と檜原村の北秋川山の家を貸出を実施した。</p> <p>【効果】集団生活を通して自然に接し、仲間づくりや交流を深めることで、青少年の健全育成につながる。</p>
<p>小学生国内交流事業</p> <p>【内容】子どもたちが他の都市（岩手県岩泉町）の子どもたちと交歓・交流し、ふれあいを深めるとともに、社会性や豊かな人間性を育むことを目的に実施した。</p> <p>【効果】定員20名に対し22名が参加し、岩泉町の子どもたちとの交歓・交流がはかられた。</p>
<p>青少年フェスティバル事業</p> <p>【内容】「青少年とともにあゆむ都市宣言」の主旨を再確認するとともに、次代を担う青少年が自ら企画運営し、地域社会との交流・連帯の場を創造することを目的とし実施している。</p> <p>【効果】フェスティバル実行委員会を組織し、実行委員が企画・運営などを行うことにより、青少年が主体的に判断し、協調して実現する、体験的な活動を行うことができた。</p>
<p>中学生海外交流事業</p> <p>【内容】平成27年度は、西オーストラリア州パースにあるシェントン・カレッジと交流事業を実施し、中学生20人が8泊9日で同校を訪問する中で、学校生活、ホームステイなどを通して交流をはかった。また、9月には、同校の20人の生徒を福島中で受け入れた。なお、平成28年度はパース・モダン・スクールと交流事業を実施し、隔年で交流を重ねている</p> <p>【効果】海外の学校との相互交流を通して直にその国の文化や歴史、言語に触れることで、国際的視野を広げた。</p>

内部評価

青少年の健全育成にあたっては、行政のみならず、地域で活動する青少年とともにあゆむ小学校地区委員会（ウィズユース）、小学校地区子ども会連合会及び単一子ども会などの団体との情報交換・交流をはかる中で、協働して取り組みを進めている。

また、青少年問題協議会において定めた「青少年健全育成活動基本方針」を基に各事業に取り組み、小学生国内交流事業や、中学生海外交流事業に子どもたちが参加することにより、様々な体験、経験を通して「生きる力」を育むことにもつながっている。

青少年の居場所である青少年等交流センターの代替施設として、昭和町分室1階を改修し、新たな青少年交流センターを整備するなど青少年の健全育成に努めた。開設間もない施設であるが、利用状況は概ね良好に推移している。

評価

世界の若者の意識調査を見ると、日本の若者の自己肯定感は他国と比較すると低い傾向にある。昭島市は「青少年とともにあゆむ都市宣言」をしており、青少年に対する施策は重要である。様々な体験を通じた取り組みは、若者が自身を持って生きていくための経験となる。自己肯定感を上げるような取り組みを進められたい。

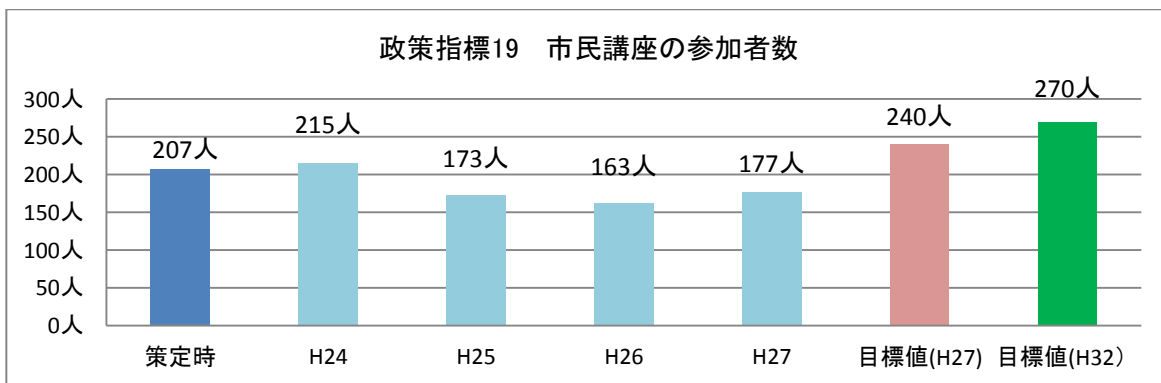
また、グローバル社会の中にあって、海外の子どもたちとの交流は、世界的な視野を広げることに繋がり、育成過程において非常に重要なことである。そうした経験が今後の教育、成長に活かされるよう、その後の取り組みに繋がる支援を期待する。

3 「あきしまらしさ」を築く（市民文化・学習・スポーツの推進）

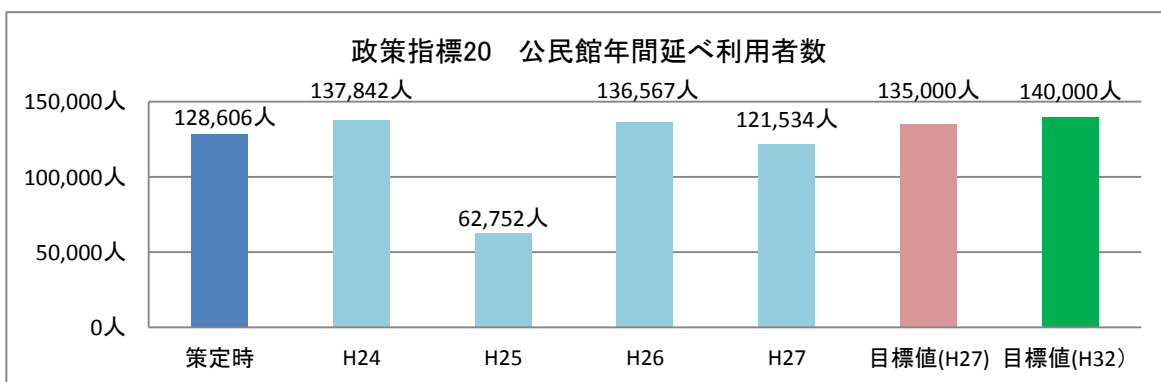
(1) 生涯学習

施策の目指す姿

誰もが、自分の意思で自由に学ぶことができる環境が整い、地域のつながりときずなを実感し、豊かな人生をおくっています。



※ 市民講座については、普段、講座に参加していない方に参加してもらえるよう、開催曜日や開催時間、講座の内容などを検討し実施している。文学講座や子ども向けの講座については、親しみやすいテーマで参加者も多く、初めての参加者も多かった。一方で、働いている方や子育て世代の方、若者を対象とした講座は、なかなか参加者が集まらない状況があった。



※ 公民館の各施設の利用状況は、ほぼ横ばいであるが、公民館登録団体の利用人数や公民館事業への参加者が減少していることから年間延べ利用者数が減少したものとする。

また、平成 25 年度の利用者の減少は、平成 25 年 1 月から 9 月までの大規模改修工事に伴う休館によるものである。

施策の体系 ～生涯学習～	
<p>①生涯学習推進体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> A 生涯学習の計画的な推進 B 推進組織の充実 C 学習の場の整備 D 学習機会の充実 	<p>②生涯学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> A 家庭・地域の教育力の向上と活用 B 学習活動の振興 C スポーツ活動の振興 D 文化芸術活動の振興 <p>③公民館活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> A 主催事業の充実 B 市民の学習活動の支援 C 学習活動の広域的連携

具体的な事業	基本計画 P148
①生涯学習推進体制の整備	
生涯学習推進計画の推進	
<p>【内容】あきしま学びぷらん（第2次昭島市生涯学習推進計画）を平成25年3月に策定し、引き続き、生涯学習の計画に取り組むとともに、「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習」に取り組む。</p> <p>【効果】「だれもが、いつでも、どこでも」学ぶことができる生涯学習の社会の実現に向けて、学習の機会と場の充実を計画的に推進した。また、市民の学習ニーズの把握につとめ、学習講座の充実をはかった。</p>	
教育振興基本計画に基づいた施策	
<p>【内容】あきしま学びぷらん（第2次昭島市生涯学習推進計画）に基づき「だれもが、いつでも、どこでも」学ぶことができる生涯学習の社会の実現に向けて、学習の機会と場の提供を計画的に推進する</p> <p>【効果】（仮称）教育福祉総合センター整備事業をはじめ公民館事業の充実、第三次子ども読書活動推進計画及びスポーツ推進計画の策定に向けた取り組み、指定文化財の保護と補助金交付など生涯学習が推進する。</p>	
生涯学習校区協議会の支援	
<p>【内容】「小学校区を中心にした生涯学習」を推進するために、PTAや自治会などと連携し、実施団体の設置や活動を支援する。</p> <p>【効果】3小学校区に校区協議会が設置され、補助金を交付し、地域住民が主体的に取り組める生涯学習事業を展開できた。</p>	
生涯学習を担う人材の発掘、育成、ネットワーク化	
<p>【内容】生涯学習援助協力者の登録、活用のほか、生涯学習サポーター養成講座の開設と受講修了者の地域での活動など、生涯学習にかかわる個人と団体のネットワーク化を推進する。</p> <p>【効果】市民団体やグループの活動にボランティアの講師派遣や団体間のコーディネータとして活動し生涯学習の推進と個人と団体とのネットワーク化に寄与した。</p>	
（仮称）教育福祉総合センター建設事業	
<p>【内容】「つなぐ・広がる・見つける・育む」をコンセプトに、教育と児童福祉を中心とした様々な機能を併せ持つ複合施設を、つつじが丘南小学校跡地に整備する。既存校舎・既存体育館の改修及び、校庭部分に図書館と郷土資料室が入った教養文化施設を新築する。平成28年4月現在、基本設計がほぼ完了。平成31年度中の開館を目指す。</p> <p>【効果】様々な機能が同一敷地内に存在することで、各機能の連携により新たなつながりが生まれ、より多くの市民に対して課題解決に向けて様々な情報提供サービスが可能となる。</p>	
市立会館、学校施設の利用（特別教室等）	
<p>【内容】グループやサークルなどの団体活動の場として、計画的な整備と内容の充実をはかる。</p> <p>【効果】市内11箇所の市立会館を計画的に整備し、市民団体などの活動の場と地域の情報交換の場として生涯学習推進の拠点化をはかられた。また、小学校の特別教室を団体活動の場として多目的な活用を進めている。</p>	
学びの機会の提供	
<p>【内容】市民の学習や活動のニーズに応えるため、障害のある青年の交流講座、家庭教育セミナー、男女共同参画セミナー、社会文化セミナー、JAXA子ども科学教室、冬休み親子工作教室、市民大学、市民大学フォーラム公開講座、シニア講座、地域公民館事業として、夏休み親子映画会、趣味教養講座、時局講演会、地域課題講座、自主市民講座などを実施した。</p> <p>【効果】現代社会のさまざまな課題とニーズに対し、市民自らが考え学習する機会を設けるとともに、老若男女、障害のある人もない人も交流を深められる、仲間作りの場を提供している。</p>	
「あきしま町あるき」の実施	
<p>【内容】昭島観光まちづくり協会が主催し、市内の産業、文化財、農業資源などを個人レベルでは見学できない、行けない場所を町あるきで見学した。</p> <p>【効果】着地型観光の実践として、地域財産の再認識による観光資源化を狙う。町の案内人として市民ナビゲーターを育成し、参加者ともども昭島の良さを再認識し、市民プライド・知的満足度を高める。</p>	

②生涯学習の推進
<p>子どもと親の家庭教育講座</p> <p>【内容】社会の急速な変化に伴い家庭や地域における教育機能の低下を考慮し、「子どもと親の家庭教育講座」を実施した。</p> <p>【効果】家庭・学校・地域の連携により一層の家庭教育の向上がはかられた。</p>
<p>あきしま学びガイド発刊事業</p> <p>【内容】市で行われる講座、イベントなどの生涯学習情報をまとめた生涯学習情報雑誌「あきしま学びガイド」を、毎年4月に発刊している。</p> <p>【効果】ガイドブックの発刊により、市民の学びたいという意欲を手助けし、自己実現・課題解決に向けて後押しがはかられた。</p>
<p>社会教育関係団体指導育成事業</p> <p>【内容】市内で活動する社会教育関係団体に活動費の一部を補助している。また、団体活動支援として研修会などを行っている。</p> <p>【効果】社会教育関連団体の育成発展をはかった。</p>
<p>スポーツ推進計画策定事業</p> <p>【内容】平成27年度で計画期間の満了となるスポーツ振興計画を検証し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も見据えたスポーツ推進計画を策定した。</p> <p>【効果】策定時に前計画の検証及び市民アンケートを実施し、現状の把握や課題が明らかになった。それらを踏まえ、効果的なスポーツ施策を策定することができた。</p>
<p>青少年スポーツ大会事業</p> <p>【内容】子どもたちがスポーツを通して協力や連帯する心を学びながら、より成長するための機会の提供を行った。</p> <p>【効果】小学校地区14地区で、多くの子どもたちが参加・協力できるような種目が実施された。</p>
<p>身近な場所での多様な芸術鑑賞の機会の提供</p> <p>【内容】市民文化祭・シニアグループ合同発表会・社会文化セミナー・シニア講座・ふれあいコンサート・市民会館自主文化事業を実施。</p> <p>【効果】市民の文化活動の推進と教養を高める。</p>
③公民館活動の充実
<p>学びの機会・文化活動の発表の場の提供</p> <p>【内容】障害のある青年の交流講座・家庭教育セミナー・男女共同参画セミナー・社会文化セミナー・市民大学・シニア講座・地域公民館事業・自主市民講座・市民文化祭・シニアグループ合同発表会・公民館利用団体懇談会・公民館保育室保育者連絡会を実施。</p> <p>【効果】公民館が様々な活用され、市民の課題解決に役立つよう、機会の提供とともに公民館運営に関する意見交換会を実施し、効率的・効果的な公民館運営ができた。</p>
<p>市民の主体的な活動</p> <p>【内容】自主企画事業（自主市民講座・講師派遣講座）を実施。</p> <p>【効果】公民館で活動している団体が学習講座の企画・運営を行うなど、主体的に活動することにより、市民の学習活動の推進をはかることができた。</p>
<p>市立会館等を活用した地域公民館事業</p> <p>【内容】地域公民館事業（夏休み親子映画会・地域課題講座・趣味教養講座・時事講演会）を実施。</p> <p>【効果】市立会館等を活用し、映画会や話題性のあるテーマの講座などを実施し、地域公民館事業の充実に努めることができた。</p>
<p>市民の学習活動の支援</p> <p>【内容】家庭教育セミナー・男女共同参画セミナー・社会文化セミナー・JAXA 子ども科学教室・冬休み親子工作教室・市民大学・シニア講座・地域課題講座・趣味教養講座・時事講演会・自主市民講座・講師派遣講座を実施。</p> <p>【効果】市民の学習ニーズに対応した対象別・課題別の各種講座を実施し、学習活動の機会を提供することができた。</p>

③公民館活動の充実

学習活動の広域的連携

【内容】市内企業と連携し、冬休み親子工作教室を実施。

【効果】市内企業と連携した学習活動の実施により、学習活動の充実に務めることができた。また、公民館事業に普段参加が難しい年代の参加者を増やすことができた。

内部評価

市民のさまざまな学習意欲のニーズに応えるべく、さまざまな講座やイベントを開催し、年代別、テーマ別に分かれて、市民の参加しやすい学習の場の提供に努めている。

しかし市民向けの講座や公民館の利用者数が伸びていないのは、若者や働いている方、子育て世代の利用状況が低いことが一因であり、気軽に参加しやすい状況を作るために、内容や開催時間、開催場所などさまざまに検討し、時代に合った魅力ある講座やイベントの開催を企画するとともに、世代を超えた市民相互のコミュニティづくりを進めて行くことも必要である。

今後も、時代背景の変化や市民ニーズの変化を的確に捉え、学習意欲等が高まり、参加者も増加するような講座やイベントの内容となるよう、内容の見直し等事業の充実をはかっていく。

評価

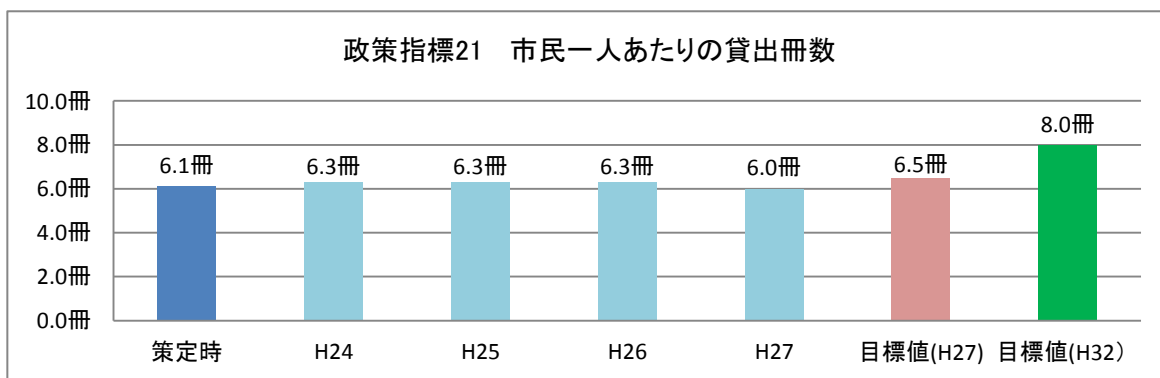
市民講座などについては、広報やホームページなどに加え、自治会の回覧板も活用し周知をはかられたい。

また、地域にはいろいろな人材がいることから、生涯学習援助協力者の取り組みなどはさらに推進し、自由に学ぶ機会を増やし、地域のつながりときずなを実感した豊かな人生をおくることのできるよう取り組みを進められたい。

(2) 図書館活動

施策の目指す姿

図書館が地域に開かれた地の拠点として市民の学びを支え、暮らしに役立ち、人と本のよりよい出会いの場となっています。



※ ここ数年は、一人当たり貸出数は約 6.3 冊で推移してきた。平成 27 年度は平成 28 年 2 月より、市民図書館が耐震補強工事に入り、一部休館となり、その影響により 27 年度の一人当たり貸出数が減少したと考えられる。

施策の体系 ～図書館活動～

①図書館活動の充実

- A 図書館サービスの充実
- B 図書館資料の充実
- C 子どもの読書活動の支援
- D サービス網の整備

具体的な事業

基本計画 P155

①図書館活動の充実

図書館相互利用

【内容】平成 28 年 4 月現在、あきる野市・福生市・武蔵村山市・立川市と相互利用を実施している。
【効果】市民が広域的に図書館を利用できるようになり、利便性が向上した。

利用に障害のある方の読書活動の支援

【内容】障害のある方に録音図書、テープ雑誌、大活字本などの貸出し及び対面朗読を行った。朗読ボランティアを対象に録音図書作成講習会及び朗読者講習会を実施した。
【効果】障害者サービスを実施することにより、利用者の利便性がはかられた。朗読ボランティアの技術向上がはかられた。

もくせい号（移動図書館車）の運行

【内容】図書館から距離的に遠い地域の人や身体的理由で図書館を利用できない人のために移動図書館車「もくせい号」により、市内 13 箇所毎月 2 回の巡回により本の貸出しサービスを行った。
【効果】各箇所利用状況にばらつきがあるが、子どもから大人、高齢者まで幅広い年齢層の利用があった。

①図書館活動の充実
<p>図書館の上手な使い方の周知</p> <p>【内容】広報、HP及びチラシなどを使っての周知をはかるとともに、貸出券作成時にインターネット予約方法を紹介した。</p> <p>【効果】図書館の事業ごとにきめ細やかな周知方法をとることによって、多くの参加者があった。インターネット予約を紹介することにより、利用者の予約手続きの軽減がはかられた。</p>
<p>レファレンスサービス</p> <p>【内容】図書館の資料や機能を活用して、利用者の調査・研究のための援助や情報提供を行った。都立図書館主催のレファレンス講習会に職員が参加した。</p> <p>【効果】利用者の必要とする内容に対して、市民図書館で対応しきれない場合は都立図書館や国立国会図書館に聞くなどして、利用者の調査・研究に貢献した。職員のレファレンス技術が向上した。</p>
<p>図書館資料の充実</p> <p>【内容】図書館利用状況や市民の社会的欲求に対応することを踏まえて選書の充実に努めた。福島県の地元新聞を置き、被災者への情報提供をはかると共に、市民にも被災地の現状を知る機会の提供をはかった。</p> <p>【効果】個人・団体併せて平成27年度1年間で68万冊の貸出し実績があった。被災地の復興や除染の最新情報が提供できた。</p>
<p>子ども読書活動推進計画</p> <p>【内容】第二次子ども読書活動推進計画に基づき、ブックスタート事業、おはなし会の実施、新1年生への貸出券の配布、図書館見学・職場体験の実施及び中学高校生による読書フォーラムの実施などを行った。</p> <p>【効果】子どもの発達段階に応じた読書環境の整備をすることにより、子どもの読書活動の推進がはかられた。</p>
<p>(仮称)教育福祉総合センター内新図書館機能建設</p> <p>【内容】「つなぐ・広がる・見つける・育む」をコンセプトに教育と児童福祉を中心とした様々な機能を併せ持つ複合施設を旧つつじが丘南小既存校舎・既存体育館の改修と校庭部分に図書館と郷土資料室が入った教養文化施設を建築する。平成28年4月現在、基本設計がほぼ完了。平成31年度中の開館を目指す。</p> <p>【効果】社会教育複合施設からのコンセプトである「知の拠点」を目指し、市民の課題解決に資する施設とするために、市民ワークショップやパブリックコメント、市民説明会を開催し、市民の声を吸い上げることができた。</p>
内部評価
<p>市民図書館の利用者数は横ばい状況にあり、貸出冊数の伸びを勘案すると対象の利用者が限られている傾向にある。利用者の利便性の向上のため、近隣市と相互利用協定を結ぶなど、図書館サービスの充実には努めているが、ハード面の問題や開館時間など課題が多く見受けられる。</p> <p>平成31年度開館予定の(仮称)教育福祉総合センター内新図書館機能は、現在の市民図書館面積の約2.5倍の面積で、蔵書数39万冊規模のものとなり、学習室や閲覧席も十分に備えたものとして計画している。地域の課題や日常生活の問題解決に必要な情報の提供を担うとともに、大規模になる図書館の経営の効率化も十分に考慮した施設を目指す。</p> <p>政策指標である市民一人当たりの貸出冊数については、平成27年度の目標値を達成することはできなかったが、平成31年度には、新図書館機能を備えた(仮称)教育福祉総合センターを開館する予定で、目標値は達成できる見込みである。</p>

評価

政策指標である「市民一人当たりの貸出冊数」が達成できなかったことは、現行施設の老朽化や狭隘さ、また、開館時間等の問題だけではなく、図書館本来の目的である知の拠点としての魅力的な図書蔵書の配架も影響しているものと考えられる。新図書館機能の充実については、市の文化程度を示すバロメーターともなることから市民の期待も大きい。配架蔵書の充実、開館時間の延長、学習室、閲覧席の設置など、様々な年代の市民が利用しやすい魅力ある図書館となるよう整備をされたい。

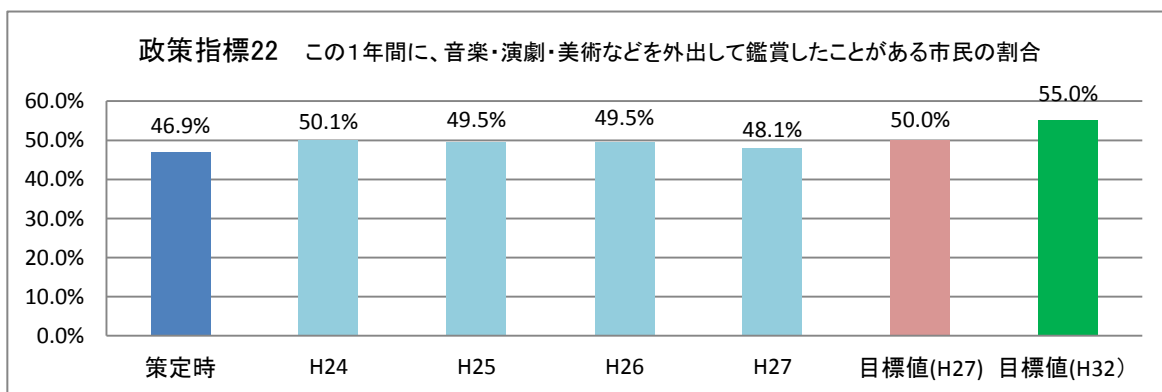
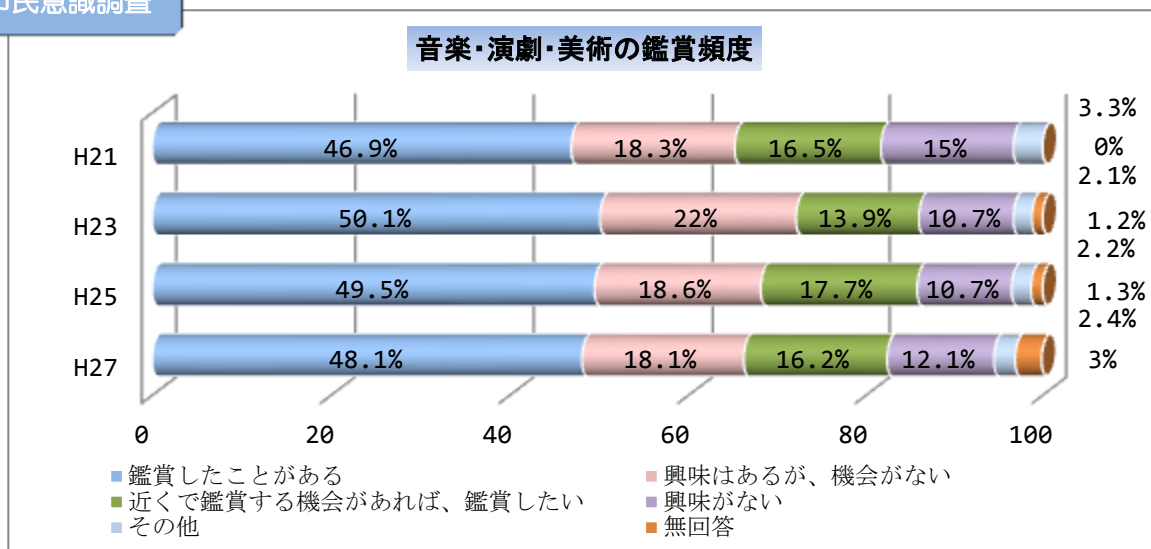
また、現在の市民図書館が閉館することによる、市内の分館、分室の配置について、市域全体のバランスを配慮し、全体的な図書館構想を検討していくことが今後の課題となることは明らかであるので、市としての具体的な対応への検討を期待する。

(3) 文化・芸術

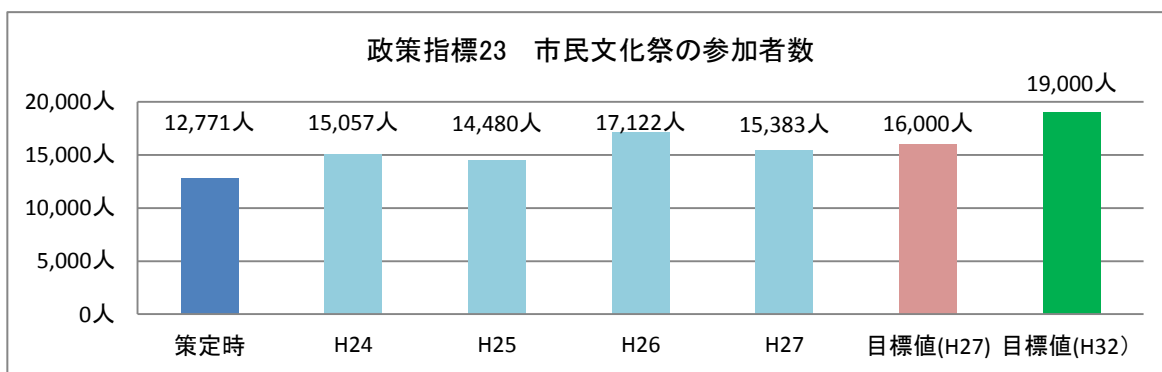
施策の目指す姿

あきしまの地域に根ざした市民文化がいきいきと花開き、誰もが文化・芸術を身近で味わい、豊かでうるおいのある暮らしを実感しています。

市民意識調査



※ 市民会館文化事業協会による自主事業や市民文化祭をはじめ市民団体による美術・音楽・演劇などの発表会を行っており、多くの市民に鑑賞していただいているが、政策指標の内容が市民会館・公民館の事業だけが対象ではないため、状況の把握や取り組みが難しい。



※ 市民文化祭の参加者数については、平成 26 年度は市制施行 60 周年記念の年であり、開催日数が増えたため、17,000 人を超えた。平成 27 年度は約 1,700 人減っているが、今後は、参加部門数が増えるため、参加者も増える見込みである。

施策の体系	～文化・芸術～
<p>①文化芸術活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> A 市民文化の育成 B 自主的な活動緒支援 C 文化芸術に関する意識の高揚 D 文化芸術に接する機会の拡充 E 文化芸術を担う人材の育成 	

具体的な事業	基本計画 P159
<p>①文化芸術活動の推進</p> <p>広域的な連携</p> <p>【内容】他の自治体と連携し、各自治体で実施される文化芸術に関する情報紙などを設置し、情報の提供を行っている。</p> <p>【効果】他の自治体の情報紙などを設置することにより、多くの文化芸術活動の情報を提供することができた。</p> <p>高齢者の豊かな知識や経験が活用できる場の提供</p> <p>【内容】生涯学習援助協力者の登録、活用や生涯学習サポーター養成講座の開設と受講終了者の地域での活動に対する助言や支援をする。</p> <p>【効果】市民団体やグループの活動にボランティアの講師派遣や団体間のコーディネータとして活動し生涯学習の推進に寄与している。</p> <p>市民文化祭の開催</p> <p>【内容】日常的な文化活動の発表の機会の提供をはかり、市民相互の交流をはかるため、市民文化祭を開催している。</p> <p>【効果】平成 27 年度は、27 部門からの参加があり、参加者は 15,383 名であった。文化の祭典として多くの市民に親しまれ、市民文化活動の振興と地域文化の向上発展の原動力として成果を収めた。</p> <p>活動場所の提供、発表機会の拡充</p> <p>【内容】グループやサークルなどの団体活動の場として、市内 11 箇所の市立会館、公民館、勤労商工市民センターなどの貸し出しを行っている。利用に際しては公共施設予約システムを活用し予約することにより、市民の利便性の向上がはかられている。また、小学校の特別教室の貸し出しも行い、様々な活動場所の提供に努めた。</p> <p>市立会館においては、掲示板を発表会の告知や会員募集などにも活用している。また、拝島駅自由通路や一部の市立会館では、活動の成果を発表できるスペースを確保し活用している。</p> <p>【効果】市立会館ほか、施設の整備を実施し、小学校の特別教室も活用するなど、音楽活動や料理研究など多目的な活動を進めるための場所の提供並びに活動成果の発表機会の拡充がはかられた。</p>	

①文化芸術活動の推進
<p>子どもたちの文化芸術の魅力を理解する機会の充実</p> <p>【内容】 小学校第5学年全児童を対象に、市民会館においてオーケストラを招いて音楽鑑賞教室を実施している。</p> <p>【効果】 オーケストラの演奏を観賞することにより文化芸術に興味・関心をもつきっかけとなっている。</p>
<p>市内芸術家三人展の開催</p> <p>【内容】 文化芸術の担い手である市民への芸術鑑賞の機会を提供するとともに、市内在住の芸術家の創造活動などへの支援を行い、文化芸術活動の推進をはかるため、市内在住三名の芸術家の作品を展覧した。</p> <p>【効果】 平成26年度まではフォレスト・イン昭和館、市役所において展覧していたが、平成27年度はフォレスト・イン昭和館に代わりモリタウンで実施し、多くの来場者（約2,800人）があり、身近で芸術を鑑賞し、また市内在住の芸術家の存在を知る機会ともなっている。</p>
<p>文化資産復元事業補助</p> <p>【内容】 文化的に重要な資産を保存・継承し、地域に根ざした市民文化を育成することを目的に、その所有者などが行う文化資産の復元などの事業に対し補助金を交付した。</p> <p>【効果】 拝島日吉神社祭礼奈賀町屋台の復元などを実施し、重要な文化資産の保存・継承に寄与した。</p>

内部評価
<p>日常的に公民館や市立会館を利用して、文化芸術活動を行っている市民の方々の成果の発表の場として、市民文化祭を開催している。毎年参加部門数の増加がみられ、趣味や芸術活動が多岐にわたっていることが伺える。さらに参加しやすい市民文化祭の開催を目指す。</p> <p>また、政策指標でもある市民文化祭の参加者数については、平成26年度は目標値に達しているものの、平成27年度については目標値を下回った。今後も市民の文化・芸術の充実のため、市民文化祭運営委員会と協力しながら、市民自らの手で創る参加しやすい市民文化祭を目指し、事業のPRにも努めていく。</p> <p>一方では、昭島市文化芸術振興会と連携し、平成23年度より市主催事業として、市内芸術家三人展を開催し、市民が身近なところで芸術鑑賞できるよう機会の提供と併せて、市内在住の芸術家の創造活動などを活性化するために実施している。今後もさらに、昭島市文化芸術振興会との連携を密にして、文化香るまちとしての施策の展開をはかる。</p>

評価
<p>市内で絵や書道、音楽などのサークル活動を行う場所として、公民館、市立会館をはじめ、松原町コミュニティセンター、環境コミュニケーションセンター、勤労商工市民センター、市民交流センターなどが利用でき、さらには拝島第三小学校など、一部の学校の特別教室など、多くの活動場所が用意されている。</p> <p>活動の成果の発表場所としても拝島駅自由通路や市立会館が活用されており、市民文化祭だけでなく、活動の成果を発表する場をさらに増やし、市民一人ひとりが芸術が身近なものと感じられるよう、また、市民の文化芸術活動が推進されることを期待する。</p>

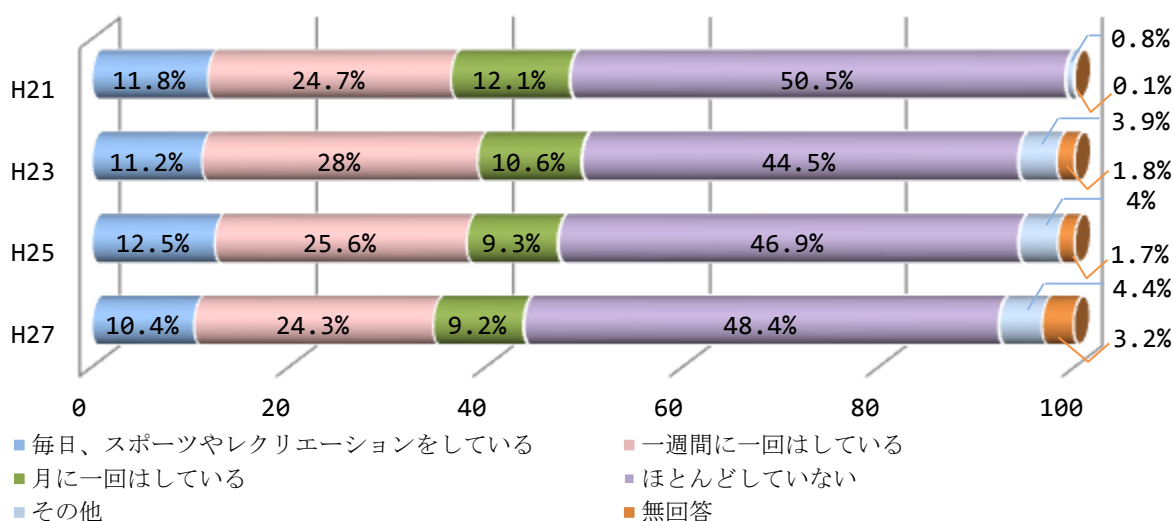
(4) スポーツ・レクリエーション

施策の目指す姿

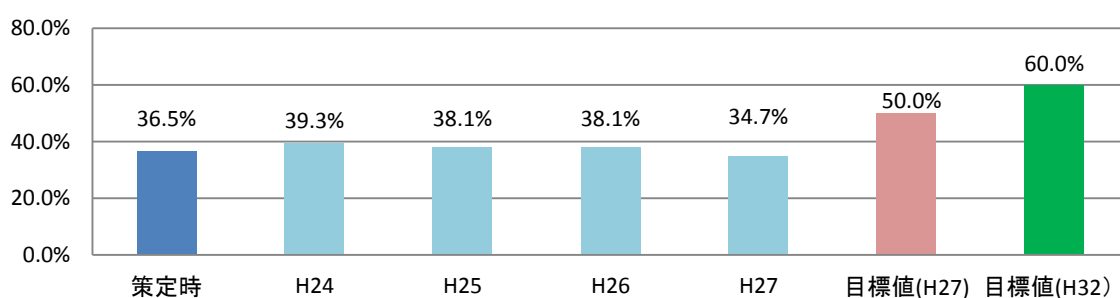
市民一人ひとりが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツやレクリエーションに親しみ、交流を深め心身ともに健康で明るく豊かな生活をおくっています。

市民意識調査

3-3-3 スポーツやレクリエーションの頻度



政策指標24 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合



※ 市民意識調査の数字では、計画策定時から減少傾向にあるが、平成27年度に策定をした「スポーツ推進計画」のアンケート結果を見ると、50%を超えた数字となっている。

2つのアンケートの対象者数や回答率が異なるため、一概に結果の分析はできないが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催など、健康志向によりスポーツを行う市民は今後増加傾向にあると予測される。

施策の体系 ～スポーツ・レクリエーション～	
<p>①スポーツ振興計画の推進</p> <p>A スポーツ振興計画の推進</p> <p>B 計画の周知</p> <p>②スポーツライフの形成</p> <p>A 参加機会の拡大</p> <p>B スポーツによる健康の増進</p> <p>C スポーツによる交流の促進</p>	<p>③スポーツ・レクリエーションの基盤整備</p> <p>A 施設の維持・管理と活用</p> <p>B 人材の確保・育成と連携</p> <p>C 情報の収集と提供</p> <p>D スポーツ・レクリエーション団体への支援</p>

具体的な事業	基本計画 P164
①スポーツ振興計画の推進	
<p>スポーツ推進計画策定事業</p> <p>【内容】平成27年度で計画期間の満了となるスポーツ振興計画の検証を踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も見据えたスポーツ推進計画を策定し、スポーツ関係団体をはじめ、広く市民に周知するため、各公共施設に配布及び市ホームページに掲載した。</p> <p>【効果】策定時に前計画の検証及び市民アンケートを実施し、現状の把握や課題が明らかになった。それらを踏まえ、効果的なスポーツ施策を策定することができた。</p>	
②スポーツライフの形成	
<p>各種スポーツ教室の実施</p> <p>【内容】子供から高齢者までの市民の誰もがスポーツに親しみ、取り組めるよう、スポーツを「する」きっかけづくりのための各種スポーツ教室を毎年約20種目程度の教室を開催した。</p> <p>【効果】市民の様々なニーズに対応するため、毎年新規の教室を導入し、参加者の拡充をはかったことにより、年間延べ8,000人～9,000人の参加者があった。</p>	
<p>チャレンジデーへの参加</p> <p>【内容】市民の自主的な健康づくりを支援するため、スポーツへのきっかけ作りとして毎年5月最終水曜日に開催される国際的イベントであるチャレンジデーに参加した。</p> <p>【効果】多くの参加者があり、平成27年度参加率75.9%、85,541人の参加があった。老人クラブや自治会の参加や障害者向けのスポーツ教室なども開催し、日常的に運動することのきっかけ作りの提供となった。</p>	
<p>健康教育事業</p> <p>【内容】健康づくりのため、ストレッチ体操などの運動と栄養・休養について学ぶ「いきいき元気教室」や、講義、運動、栄養実習から正しい知識と生活習慣を身につける「生活習慣病予防教室」など様々な教室、講座を実施した。</p> <p>【効果】平成27年度の実施回数は合わせて60回開催し、参加者数は延べ1,073人となっている。健康に過ごす知識を身につけ、参加者同士の交流の場ともなっている。</p>	
<p>高齢者各種教室事業</p> <p>【内容】いきいき・ニコニコ介護予防教室として、軽体操、ウォーキング、実用書道、絵画、インターネット、陶芸、スポーツ吹き矢、脳のトレーニング、英語、絵手紙、栄養（料理）、歴史散歩などの各講座を開催。また、元気歯つらつ健口講座として、口腔ケアの重要性を学ぶ講座を、他に傾聴ボランティア講座を開催。</p> <p>【効果】高齢者の介護予防、生きがいづくり、仲間づくりの推進に寄与している。また、この事業は、シルバー人材センターやNPO法人ひだまりに多くの部分を委託して実施していることから、高齢者の就労の機会を提供。</p>	

<p>②スポーツライフの形成</p>
<p>中学生スポーツ交流事業</p> <p>【内容】友好都市協定を締結している岩手県岩泉町で開催される「第4回龍泉洞リレーマラソン大会」に、新春駅伝競走大会において優秀な成績を収めた中学生チームを平成28年度に派遣し、スポーツを通して町民、市民の交流をはかる。</p> <p>【効果】岩泉町の中学生をはじめ、リレーマラソン大会参加者との相互交流をはかることができる。</p>
<p>市民体育大会の開催</p> <p>【内容】市民がスポーツ・レクリエーションを通して、体力づくりと地域交流を深めるため「自治会ブロック別大会」及び日頃の継続したスポーツ活動の成果を発表する機会として「種目別大会」を関係機関と連携し開催した。</p> <p>【効果】「自治会ブロック別大会」では自治会員及び自治会相互の親睦と地域の活性化をはかり、「種目別大会」においては、競技スポーツとしての技術力向上をはかることができた。</p>
<p>新春駅伝競走大会の開催</p> <p>【内容】市民の誰もが年齢に応じチームをつくり気軽に参加でき、走ることによる健康づくりや市民の交流をはかるために開催した。平成27年度からは、より正確な記録計測及び迅速な記録集計を実施するため電子チップ方式を活用した。</p> <p>【効果】電子チップ方式を活用したことにより、各チームの順位や個人記録の確定が短縮でき、閉会式の開催や記録集の作成が効率的にでき、参加者への記録結果の発送も例年より早期に対応できた。</p>
<p>自治会ブロック対抗スポーツ大会の開催</p> <p>【内容】気軽に参加できるレクリエーションスポーツをとおして、自治会員及び自治会相互の親睦と交流をはかり地域の活性化に努める。</p> <p>【効果】誰でも参加できるレクリエーションスポーツとして「インドアペタンク」に変更種目を変更し、スポーツをとおして地域の親睦と交流を深めることができた。</p>
<p>青少年スポーツ大会の開催</p> <p>【内容】子どもたちがスポーツに親しむことにより、お互いに協力し合うことの大切さを学び、丈夫な体づくりができるよう、「青少年とともにあゆむ都市宣言」の一環として、各小学校地区委員会へ委託して実施。</p> <p>【効果】個人的な競技は避け、多くの子どもたちが参加・協力できるような種目を実施することにより、全地区で児童及び保護者などを含め、3,500人を超える参加があった。</p>
<p>スポーツ祭東京2013（第68回国民体育大会）の開催</p> <p>【内容】スポーツ祭東京2013では、軟式野球競技大会の決勝戦を含む6試合、デモンストレーション行事としてインドアペタンク競技を開催し、市並びに関係機関・団体と緊密な連携のもと、国内最高のスポーツの祭典を開催した。</p> <p>【効果】市民のスポーツへの関心を高め、競技スポーツの喜びと感動を共有することで、市民の競技力向上をはかり、市民総参加のもと地域の連帯感や郷土意識の高揚を促し、スポーツによる明るく豊かで活力に満ちた昭島市の魅力を全国に発信することができた。</p>
<p>③スポーツ・レクリエーションの基盤整備</p>
<p>運動施設の維持・管理</p> <p>【内容】市民の健康・体力づくりの場を提供するため、陸上競技場の一部を人工芝に改修するなど、財政状況を鑑みながら効果的な維持・管理に努めた。また、利用者の利便性をはかるため、公共施設予約システムを活用した。</p> <p>【効果】老朽化が進む各運動施設ではあるが、安全で安心して利用できるよう適切な修繕及び改修を実施したことにより、運動施設全体の利用者は毎年増加傾向にあり、平成27年度は延べ約69万人の利用があった。</p>
<p>残堀川調節池平常時運動施設利用整備事業</p> <p>【内容】立川基地跡地に東京都が利用計画をしている調節池を平常時に運動施設として整備する。平成28年4月現在、野球やサッカーなどに利用できる多目的広場やテニスコートなどの基本設計は実施済みである。</p> <p>【効果】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてスポーツの気運が高まってくると予想されるなかで、市民の多様なニーズに応える施設となることが想定される。</p>

③スポーツ・レクリエーションの基盤整備
<p>スポーツ推進委員の配置</p> <p>【内容】 地域及び市全体のスポーツ推進をはかるため、地域住民からの要望に応じた実技指導及び教育委員会や各種行政機関のスポーツ行事に協力するため、小学校区域単位にスポーツ推進委員を配置する。</p> <p>【効果】 各地域の自治会ブロック運動会など、様々な地域スポーツ活動に携わるとともに、市民健康づくり歩け歩け運動を年2回、企画・運営するなど、市民のスポーツ推進をはかることができた。</p>
<p>指導者の育成事業</p> <p>【内容】 昭島市体育協会と連携し、「トップアスリート育成」を目的に著名人を招へいし、指導者を対象に指導者育成講習会や、指導者向けの救命救急講習会（上級救命）を開催し、指導者としての育成をはかる。</p> <p>【効果】 ジュニア育成のための指導方法などの講習会を通して、体育協会所属の各競技団体の指導者に効果的な指導方法の習得がはかられた。</p>
<p>スポーツ力向上事業</p> <p>【内容】 競技スポーツを中心に活動をしている昭島市体育協会と連携し、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、競技スポーツ選手の競技力向上に資する練習会や大会を実施し、トップアスリートの育成をはかる。</p> <p>【効果】 体育協会所属の各スポーツ種目団体が、それぞれの企画・運営を行い、競技力の向上をはかるとともに、各スポーツ種目団体の活性化を促す機会にもなった。</p>
<p>総合型地域スポーツクラブへの支援</p> <p>【内容】 スポーツ基本法に基づく、あらゆる世代の市民にスポーツの機会と場を提供し、スポーツを通して、親睦をはかり生涯スポーツ社会の実現のため、市民が主体的に参画する総合型地域スポーツクラブである「昭島くじらスポーツクラブ」を平成 23 年 2 月に設立し、活動のバックアップを行っている。</p> <p>【効果】 安定的な事業開催のため施設の提供や市民への周知をはかるため市広報への掲載など、地域におけるスポーツ振興のための支援をはかることができた。</p>

内部評価
<p>自らの健康状態や運動能力に応じて、市民の誰もがスポーツやレクリエーションに楽しむことができるよう、施設の整備やバリアフリー化、さまざまな年齢に合わせたスポーツ教室やイベントの開催、総合型地域スポーツクラブである「くじらスポーツクラブ」の活動支援など、すべての市民が気軽にスポーツに親しめるような環境整備をはかっている。</p> <p>また、平成 24 年度から取り組んでいるチャレンジデーは、市内の各種団体、企業の協力の下、年々参加者数が増加し、スポーツをするきっかけづくりとしての効果があった。スポーツ活動を継続的にを行い市民の競技レベルの向上を支援するため、競技スポーツ団体である体育協会などと連携し、競技スポーツ大会の充実をはかっている。</p> <p>今後は、老朽化が進んでいるスポーツ施設の計画的な更新事業や新たなスポーツ施設の整備などの課題はあるが、スポーツをする場の施設整備やさらに多くの市民がスポーツに親しめる環境の整備をはかる必要がある。</p>

評価

総合型地域スポーツクラブについては1団体のみ設立となっており、総合スポーツセンターを中心とする活動が多いようである。市民の声を反映する利用方法を検討し、活動の推進をはかられたい。

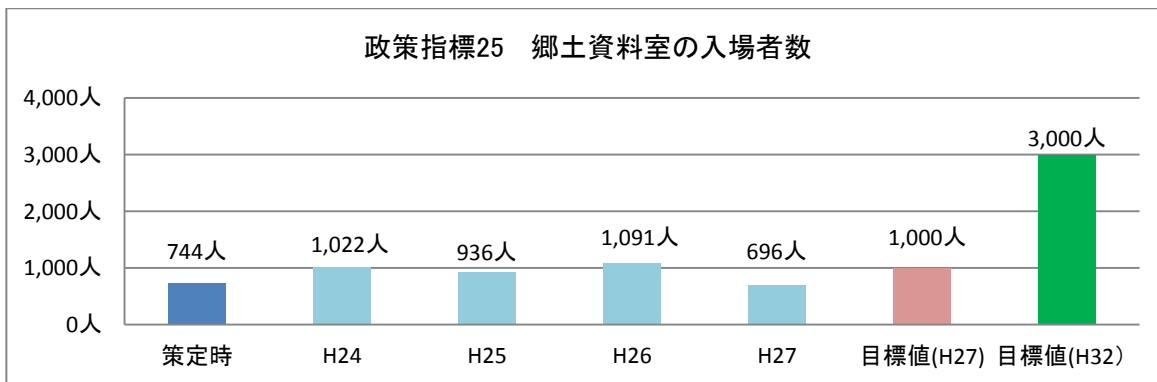
チャレンジデーの取り組みについては市民や事業者が一丸となり取り組みが進められており、スポーツのきっかけづくりとして大いに役立っている。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けては、今後様々な取り組みが行われると期待するが、スポーツライミングが正式競技となったことに伴い、市の民間施設とも連携し、事前キャンプなどの招致活動にも努めていただきたい。

(5) 文化財

施策の目指す姿

地域の暮らしのなかで守られ、継承された文化財が、先人の地と技を伝え、個性あふれる地域文化の核となっています。



※ 平成26年度の郷土資料室の入場者数は1,091人であったが、昨年度は郷土資料室のある昭和町分室が改修工事を実施し、約5か月の閉室期間があった。そのため、目標値の達成ができなかったと推測される。

施策の体系 ~文化財~	
<p>①文化財の保護・保存</p> <ul style="list-style-type: none"> A 文化財の調査 B 文化財の収集 C 文化遺産などの保存 D 保存体制の整備 	<p>②文化財の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> A 展示、公開の充実 B 文化遺産などの活用 C 保護思想の普及、啓発

具体的な事業	基本計画 P168
①文化財の保護・保存	
<p>文化財の調査、収集</p> <p>【内容】埋蔵文化財や民具、古文書などの収集をはかるとともに、その整理、記録、保存に努める。</p> <p>【効果】地域の歴史や文化を理解、記録し、次世代へ確実に継承されている。</p>	
<p>文化財保存事業補助金</p> <p>【内容】①拝島日吉神社祭礼奈賀町屋台修理事業 ②大日堂境域消火設備不具合箇所修理</p> <p>【効果】①修理することにより良好な状態に保ち、将来へ継承できる。 ②貴重な文化財を火災などから守ることができる。</p>	
<p>文化財の保存体制の整備</p> <p>【内容】(仮称)教育福祉総合センター内に開設予定の新郷土資料室及び収蔵室の有効利用のため、市内に点在収蔵する民具などの調査、分類、記録化をはかる。</p> <p>【効果】収集し市内に分散収蔵してある土器、石器類や古文書、民具などの適切な管理、保存と記録のデータベース化がはかられた。</p>	

②文化財の活用
<p>展示、公開の充実</p> <p>【内容】市内で発掘された土器・石器類や古文書、生活用具・農具などの民具を体系的に展示、公開し、昭島の歴史や文化の理解をはかる。</p> <p>【効果】小学生の社会科見学や郷土史の研究などで、昭島の歴史や文化の理解と啓発がはかられた。</p>
<p>郷土芸能まつりの開催</p> <p>【内容】昭島市内の各地域で長く承継されてきた郷土芸能を、一同に会し披露する。</p> <p>【効果】市を代表する郷土芸能の地域文化発表の場として、次世代への継承の支援とするとともに、昭島市の観光資源として育て、市の内外から集客し、地域の活性化がはかられた。</p>
<p>文化財めぐりの実施と文化財ガイドの刊行</p> <p>【内容】身近な文化財をガイド付きで歩いて巡る事業を行う。また、市内の史跡を網羅した文化財ガイド「あきしまの史跡めぐり」を刊行。いつでも、だれもが史跡めぐりやスタンプラリー散策ができる。</p> <p>【効果】身近な文化遺産を通して郷土を知り、文化財保護に対する啓発がはかられた。</p>
<p>「拝島のフジ」開花状況をホームページへ公開</p> <p>【内容】東京都指定天然記念物「拝島のフジ」開花状況をホームページへ掲載。</p> <p>【効果】市内外の人々に昭島の誇る文化財「拝島のフジ」を紹介し、市外から訪れる人々へ PR がはかられた。</p>

内部評価
<p>地域の文化遺産を後世に伝えて行くために、文化財保存のための補助金を交付し、地域の伝統や地域づくりの核ともなる文化財を守っていく。また、地域で伝承されてきた有形・無形の文化財に身近に触れることで、地域の理解と愛着を育むために、平成 31 年度開館予定の（仮称）教育福祉総合センター内に郷土資料室を新たに設置し、同施設にてさまざまな土器、石器、民具などの展示・活用・保存（民具・遺物）の適切な保管にも努める。</p> <p>また、政策指標である郷土資料室の入場者数については、平成 31 年度には、新しい郷土資料室が（仮称）教育福祉総合センター内にオープン予定であり、開館日数や開館時間も大幅に増加することから、最終目標値は達成できると見込んでいる。</p>

評価
<p>郷土資料室の入場者数については新しい郷土資料室の開設により目標を達成できるものと見込んでいるが、開館日数や開館時間の拡大はもとより、常設展示の内容を充実させ、企画展を開催するなど、昭島に人を呼び込む施設となるような郷土資料室とするためには学芸員の配置が必要である。</p> <p>また、人口減少・超高齢社会の到来により、本市においても人口減少が課題であることから、文化財をはじめとし、歴史ある昭島の郷土伝統文化や郷土芸能などを含め、一つの観光資源として紹介するなど、人が訪れるまちづくりを推進されたい。この視点において、（仮称）教育福祉総合センターの設置による郷土資料室の充実・拡充は大いに期待できる。</p>